

平成 28 年度

事業所名 : グループホーム 若園荘 (3階ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100287		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム若園荘 3階ユニット		
所在地	岩手県盛岡市若園町8番11号		
自己評価作成日	平成 28 年 5 月 12日	評価結果市町村受理日	平成28年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100287-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 5月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市の中心、中津川に架かる上の橋から南に400メートル程のところに位置し、盛岡市内循環バス「でんでんむし」の停留所の真正面に事業所があります。バスセンターから徒歩10分。幼稚園、小学校、高等学校、武道館、等の社会資源にも恵まれた環境です。利用者一人ひとりが生き活きと生活が送れるような、地域性を活かした取り組みを行っていきたくと考えています。また、同法人の医療機関と連携を取りながら、安心して生活できるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から4年を経過する中で職員は利用者一人ひとりの心身の把握に努め、適切なケアが確立してきており、場面作りから関わりながら、利用者の尊厳や誇りを大切に支援している。職員は互いに補い合い、業務に当たっては、先輩が後輩を丁寧に育てていく風土ができています。地域との付き合いでは町内会に加入し関係づくりに努めており、広報の配布や災害時の「地域防災協力会」が発足している。昨年の夏祭りは好評であったが、地域のホームへの理解はまだ浅い。地域に事業所を知ってもらう工夫や社会資源への働きかけなど、運営推進会議などを活かした取り組みを進めていきたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：グループホーム 若園荘（3階ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで理念を唱和し、また職員一人ひとりが理念に添った目標を持ちケアにつとめている。	開設時に法人理念「愛と誠」を受けて、全職員で話し合い事業所理念を定めている。また3項目の個人目標を設け各自で年3回チェックしており、今後個人面談でも触れ実践とのつながりを深める予定でいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に1度の清掃活動に利用者と一緒に参加して、職員共々地域との交流を持っている。	町内会に加入しホームは一つの班となっている。毎月の清掃活動、年4回の資源回収への参加や、昨年から夏祭りを開催し、今年は施設開放を計画している。さらに年4回発行の広報紙は町内回覧を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様にむけて広報を年に4回発行し、情報を発信している。昨年は小学校と中学校から総合学習の職場体験の申し出があり、認知症高齢者の理解を深めていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の皆様と利用者家族に参加をお願いし、施設の入居状況や活動内容の報告を行っている。会議の中で頂いた意見をもとに、サービスに繋げている。	事業所からは利用者一人ひとりについて詳細に紹介し理解を得ている。周辺3町内会の委員や利用者家族代表から率直な感想や意見が出され、玄関先の外灯設置など改善につなげている。	委員からの率直な意見を受け止めながら、例えば行事への協力を打診するなどあらゆる機会を通じて、委員や引いては地域住民がホームへの理解を深め地域にとって大切な施設・活動との認識を持つようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議の定期的に参加して、情報を得ている。施設運営での困りごとや疑問があればその都度連絡をとり解決している。	地域ケア会議で情報交換や課題について話題にしている。市とは開設時には連携を図り協力頂いた。現在は提出書類を届けたり、利用者の生活や成年後見などの相談をしながら関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、「拘束をしないケア」に解く組んでいる	理念の理解や毎月の勉強会で「拘束しないケア」を確認している。利用者の言葉に耳を傾け、心を識る事に努めスキンシップを大切にしている。「すわっていて」等行動抑制的発言が時にあり、職員同士で指摘合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識統一を図り、虐待の早期発見と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、その内容を施設にて実践している。身体拘束の具体的な例を挙げて意見交換したり、勉強会のテーマにして知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には同意を得られるように、時間をかけて説明を行っている。契約内容の疑問については納得いただくまで説明、改定に関しては文章でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時にできるだけ声をかけて意見を聞きだせるような場をつくっている。意見の内容はミーティングなどで報告し、職員間で共有している。	月間報告を家族に送り利用者の日々の生活の様子などを知らせており、来訪時に声がけをし意見や要望を伺い、利用者の外出希望など対応している。敬老会では家族同士の交流が見られ、今後家族会へ繋げたいと考えている。	敬老会で家族同士の交流が見られていることから、機会を重ねる事で家族間の絆が築かれるとともに、より安心し満足できる生活の場となるための意見や要望が家族から出されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見や提案を出せるような雰囲気作りを心がけている。行事等の企画立案は職員のアイデアを引き出し、積極的に関わってもらう。	年1回管理者との個別面接では個々の要望を伺っているほか、職員全員が何らかの係に所属し企画・運営を行い、必要に応じ管理者と相談して、運営に取り入れるなど柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談の機会を設けて、職場環境についての悩みや意見を聞き取り、働く意欲の向上に繋げていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人研修に積極的に参加できるような体制作りを行い、研修報告は勉強会又は日々のケアで実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会または交換研修に参加して同業者の情報を得る事により、より良いケアに繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを大事にしながら家族からの情報をもとに生活習慣やこだわりを尊重し、安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いを傾聴して、本人にとって必要な支援について職員間で話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにより本人の情報をしっかりと得た上で支援内容を決めていく。同時に家族にも意見を求め、より良いサービスに努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活に役割をもち、充実した生活に繋がるような支援を行っている。また利用者間に思いやりの気持ちが持てるような関係作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時は居室でゆっくりと過ごしてもらうように努めており、外出や外泊も家族の協力の下に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なボランティアの受け入れにより馴染みの関係ができて、それを楽しみと感じている。	毎月帰宅する人・家族と墓参りする人・遠方の家族と電話・趣味活動など多様であり、それぞれの関係の継続支援に努めている。また定期的なボランティアの来所による新たな馴染みが築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい利用者には職員から声を掛けて、自然に利用者の輪に入ってもらえるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も情報を得ながら、家族からの相談に応じたり他施設の情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の「やりたいこと」を尊重し、実現できるような環境を作っている。困難な場合は表情を見て、楽しんでいるか否かを把握する。	刺し子や踊り、百科事典を調べるなど、利用者の趣味・楽しみなどを把握しているほか、家族とも話し合いながら本人の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャー等からの情報提供により生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身の状態の変化を見逃さず細かく記録し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を取り入れながら、状態の変化に合わせた介護計画を作成している。またカンファレンスを行い、看護・介護双方からの意見を出し合っている。	担当制により日々の記録やモニタリングを行いアセスメントしている。介護・看護の視点、ライフサポートの観点や変化をプラス思考で把握し業務会議で検討、ケアマネが見直し・変更の原案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を個別に記録し、情報を共有している。変化があった場合は各ユニットでカンファレンスを行い、状況の変化に沿う介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自宅を空っぽにしているから心配」との本人の希望により帰宅支援を行っている。家族の協力で定期的な外泊が実現し、精神的な安定に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを招いて様々な催しを行ったり学校との交流により子供たちと触れ合う事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人病院となっており、入居時に家族からの了解を得ている。定期的な往診により、日常の健康管理と状態の変化への対応が可能となっている。	入居時、本人・家族と話し合い納得の上内科は法人病院を主治医としている。眼科・皮膚科・歯科等はそれぞれのかかりつけ医に通院している。通院は家族同行が基本としており、ホームでの様子やバイタル情報を家族に渡し、結果は家族から聞き適切な医療の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が日常の健康管理や観察を行い、その他夜間、休日の対応は訪問看護と連携を取りながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と連絡、早期退院に向け支援している。また家族とも連携を取りながら、退院後についての相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応について入居時に家族の意向を確認し、医療機関と連携し支援をおこなっていく。	重度化や終末期の対応については初期に本人、家族に説明しており、体調が悪化した時点で医療機関と連携を図っている。看取り体制の整備の必要性は感じており、今後勉強会を持ちながら利用者、家族のニーズを汲み取っていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成して、防災についての意識を高めている。救急救命法の研修会を定期的実施して、実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。災害時の対応として近隣職員はもちろん、地域住民に「地域防災協会」として協力を依頼している。	年2回、昼と夜を想定しての避難訓練を行い地域防災協会会員や消防署員の参加を得ている。また近隣の職員は連絡網により迅速に集まるようにしている。なお備蓄物資(水・食料など)の充実を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助やトイレ誘導時には人格を尊重し、羞恥心に配慮した声掛けを意識している。利用者への言葉遣いでは馴れ馴れしくならないよう心がけている。	利用者は人生の先輩として敬う心を常に抱き、慣れ合いの言葉にならないような声掛けや、排泄支援では耳元でさりげなく声掛けし羞恥心に配慮している。共同の場であるが、一人ひとりの生活スタイルを尊重する支援を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から利用者の思いを汲み取り、実現にむけての支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った生活スタイルを尊重し、柔軟に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の着たい服が選べるように環境を整えたり、季節に合わせたおしゃれができるような支援をする。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮した食事作りを心がけている。食事作りは基本職員が行っているが、盛り付けや食器洗い等は自主性を尊重している。	利用者の好みの食事に配慮しているため、ほぼ完食である。職員も同じテーブルで会話を楽しみつつ会食し、利用者は食事の準備から後片づけまで自主的に参加をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に沿った食事作りを行っている。食事量、水分量のチェック表を用いて一人ひとりの摂取量の把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの機能に合わせた介助を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを着用していても定期的にトイレに誘導し、排便を促している。また、サインを見逃さないよう行動を観察し支援している。	利用者の3分の1が自立しており日中は声掛けで全員トイレ使用である。夜間は定時に誘導する人やゆっくり休みたいとオムツを使う人など一人ひとりの実態やニーズに応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事。夕食前にヨーグルトを食べて頂くなどの便秘予防に配慮した工夫をおこなっている。さらに水分摂取量のチェックをしたり、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り希望に沿った入浴をおこなっている。どうしても希望に沿えない場合は足浴を行っている。	3日に1回の入浴としており、入浴剤を用い香りを楽しんでいる。入浴中、多くの方が歌を口ずさみ介助する職員との会話も楽しんでいる。まれに入浴を避ける人もおり足浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、居室やリビング等で休息して頂いている。夜間には入眠するまでの照明の希望があれば柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行い、処方箋の変更があった場合は看護師が介護記録を用い、職員間での情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶会や生け花、折り紙教室など、生活歴を活かしたレクリエーションを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて近所を散歩したり、ドライブに出掛けたりして季節を肌で感じるような支援をおこなっている。	周囲に神社や学校があり桜など季節の花を見ながら散歩を楽しんでいる。市内の高松の池や岩山へは車椅子対応の車で、八幡平へ紅葉狩りではバスを使いドライブに出かけている。家族と共に買物や外食を楽しむ方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、買い物の機会がある時は希望の物を選んでもらい、個別の財布から、できるだけ自分の手で支払うような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけるお手伝いをしたり、手紙を投函してあげたり、柔軟に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、季節に合わせた装飾を行い、利用者の力作である刺し子を展示し、来訪者にも見て頂けるように工夫している。	居間・食堂は広く、大きな窓からは岩手山が眺望できる。壁面掲示板には折紙教室の作品や刺し子作品が飾られ潤いが感じられる。利用者はソファやテーブルで思い思いに過ごすことができ、大型テレビで健康体操のビデオを視聴し共に体を動かすなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に配置した椅子は「自分の席」を決めて、安心して過ごせる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真、家族手作りのタペストリー、習字などを飾り、自分だけの空間を作っている。	各自使い慣れた机・椅子・テレビを持ち込んでおり、机上には家族写真やぬいぐるみなどの小物が飾られている。自分の居室を間違わないようにするため、目線に合わせた目印を表示して、安心に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自力で移動できるように、障害にならないように環境を整えている。		